



あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

サトイモ 土寄せと溜水で芋を大きく

生育適温は25〜30度と高く、一方で低温に弱い。霜で葉がすぐに傷んでしまいます。畑の乾燥に極めて弱く、一度しおれると回復が遅く、また芋の肥大中に乾燥すると、芋にひび割れが生じます。畑は耕土が深く、適度に水持ちし、かつ水はけが大切です。

【品種】種芋から出た葉は、数枚重なる太い葉の束（葉柄・すいき）を成し、この元が膨らんで親芋となりま

葉柄はえぐみが少ないので、食用になります。

【畑の準備】連作を嫌うため、同じ畑で3、4年は作らないようにします。1平方m当たり苦土石灰100gを早めに全面に散布し、畝幅90cm程度とし、深さ20cmの溝を掘ります。元肥は、溝1m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100g、堆肥2kgを施します（図2）。肥料をまいた後、5cm程度に上をかけておきます。

【植え付け】中間地では地温が上がってくる4月中旬ごろから植え付けができます。地上に芽を出すまでに1カ月かかるので、暖かい場所でコンテナに仮植えし、芽出してから菜園に植え込むと良いでしょう。種芋は

芽を上に向け、株間30〜40cmとし、10cm程度かけます（図3）。

【追肥・土寄せ】土寄せは芋の肥大に関係し、一度に多くの土寄せをする

【灌水（かんすい）】野菜の中で最も乾燥に弱いので、真夏の干ばつには毎日たっぷりと与えます。時には畝間の

図1 サトイモの付き方

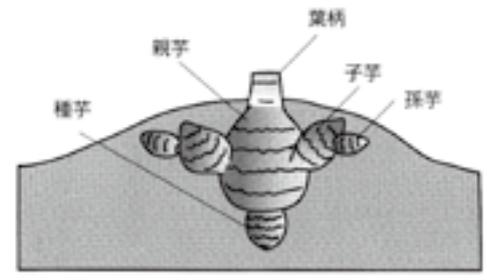


図2 畑の準備

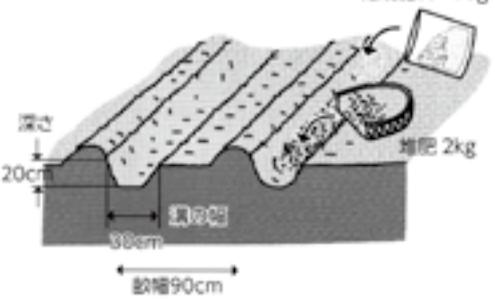


図3 植え付け

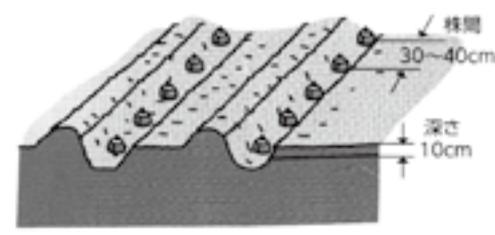
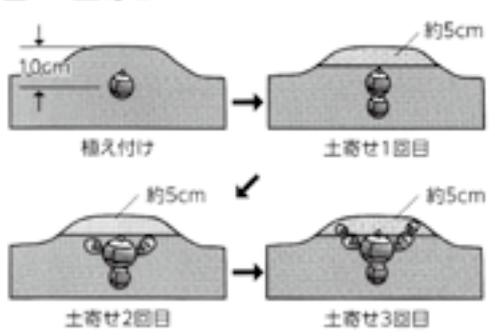


図4 土寄せ



栽培カレンダー（サトイモ）

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 中間地 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 暖地 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

● 植え付け — 生育 ■ 収穫

両端をせき止めて、水がたまるように灌水できると良いでしょう。また、敷きわらなどで土の乾燥を防ぎましょう。

【収穫】「石川早生」のような早生品種では、早掘りしてお盆のときのお供え物や「衣（きぬ）かつぎ」として小さい芋を楽しむことができます。「土垂」や「八ツ頭」などの中晩生品種は10月ごろから収穫できますが、霜の降るまで芋は肥大します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

園芸研究家 ● 成松次郎



4月、5月の柑橘園管理



1. 病害虫防除

| 対象病害虫 | 品 種 | 農薬名 | 希釈倍数 | 備 考 |
|----------------------|-----|-----------------------|------------------|----------------------|
| そうか病 | 温 州 | デランフロアブル | 1,000 倍 | 4月上旬 (発芽3mm頃) |
| かいよう病 | 中晩柑 | コサイド 3000 加用 クレフノン | 2,000 倍 200 倍 | 開花前 |
| 訪花害虫 | 全品種 | モスピランSL液剤 | 4,000 倍 | 開花期～満開期 (5月上旬～中旬) |
| 灰色カビ病 | 全品種 | ファンタジスタ顆粒水和剤 | 4,000 倍 | 開花期～満開期 |
| ホコリ・サビダニ、 カイガラムシ類 | 中晩柑 | モベントフロアブル | 2,000 倍 | 開花盛期～落弁期 |
| 黒点病 | 全品種 | ナティーボフロアブル | 1,500 倍 | 落弁期～一次落果期 |

※そうか病、灰色カビ病対策でフルーツセイバー1,500倍も使用可。 ※ケシキスイ類・コアオハナムグリはエクシレルSE5,000倍も使用可。
※モベント(F)で皮膚炎等の恐れがある場合はアグリメック2,000倍を散布。

2. 施 肥

| 栽培タイプ | 肥料名 | 施肥時期 | 品種名 | 10a当たり |
|-------|----------------------------|------|--------------------|--------|
| 通常タイプ | 果樹専用スペシャル 又は 果樹専用「極」 | 4月上旬 | デコポン | 5袋 |
| | | | 河内晩柑・清見 甘夏・パール柑 | 4袋 |
| | | | ポンカン | 8袋 |
| | | 4月中旬 | 極早生温州 | 6袋 |
| | | | 早生・中熟・普通温州 | 8袋 |

3. 葉面散布 まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進を行いましょ。

| 目的 | 薬 剤 名 | 希釈倍数 | 備 考 |
|--------|-------------------------------|-------|-------------|
| 樹勢回復 | 尿素 又はニューアミノジューシーN14又は 神協スピリッツ | 500倍 | いずれかを使用ください |
| 花芽分化促進 | ファームント又はニュージューシーエース | 500倍 | いずれかを使用ください |
| 緑化促進 | 葉面マグ | 200 倍 | |



農作業メモ



①水田除草剤の適正使用

農薬は、あらかじめ品質・効果・残留性などが、基準によりチェックされ、問題がないと判断された薬剤が農林水産大臣の登録を受け、販売・流通しています。

水田除草剤として製品に貼付されているラベルには効果や薬害、残留性等から設定された使用基準や使用上の注意事項が記載されています。その内容を遵守して使用してください。薬剤の特長や散布方法を把握し効率よく利用し、特に散布時や散布後数日間(7日程度)の水管理には十分注意を払う必要があります。湛水状態を保つことは、安定した除草効果が得られるばかりでなく水田水系外への除草剤成分の流出を防止するためにも重要となります。

散布した除草剤の有効成分は水田土壌の表層に吸着されて除草効果を発揮します。安定した効果を得るためには、この処理層を壊さない水管理が大切です。落水や漏出を防ぎ、掛け流しを行わないようにしましょう。

尚、藻類対策のモゲトン粒剤又は、1回目の散布で効果が出ない場合のアトリ粒剤はどちらか一方の除草剤を選択して使用してください。

②有効茎数の確保と中干し

除草期間が終了したら有効茎数を確保するために暖かい日中は浅水管理で分けつの促進に努めてください。1株の茎数が18本程度確保できたら中干しを行ってください。(中干し期間は、5月10日頃から10日間程度の中干し実施)また、水管理を容易にするために、中干し前の土が軟らかい時に「溝切り」を行いましょ。

③中間施肥

中干し前に、茎を丈夫にするために珪酸加里又は、サポートセブンを10㎡に20kg程度を施用してください。(高温障害・倒伏の軽減対策)

④病害虫防除

葉いもち・紋枯病の予防対策として、中干し前又は中干し後に「オリブライト剤」を散布してください。(散布後、7日間は落水しないでください。)

また、畦畔の除草による耕種的防除に努めましょ。

※補植苗は、病害虫の発生要因となりますので、早めに取り除きましょ。